

無名塾主宰

# 仲代達矢さん 特別インタビュー

Q1 旧中島町を訪れたきっかけは何ですか？

私は役者ですので、芝居の巡業であるとか、映画のロケであるとか、全国各地を回る機会があります。もう、日本全国すべてのところを回っていると思っていましたよ。

あるとき、無名塾の演出家の林が「仲代さん、能登半島に行つたことがありますか」と聞いたので「行つたことがあるよ」と答えたんですけど、日本地図を広げてみると「あつ、能登半島は行つたことがない。金沢まで」と分かつたんです。

そこで昭和58年の10月頃だったですかね、10日間くらい休みがあつたので「行つていないのなら、能登半島へ」となつて、女房と女房のお袋、そして林と私で能登半島に行つたんです。林の友達が旧中島町にいたので、そこに泊まりながら、10日間能登半島を巡つたんですよ。その時、こんなに素晴らしいところ

が日本にあつたのかと感動したことを今でも鮮明に憶えています。山があり、海があり、魚もおいしい。そういった旅行で訪れたことがきっかけですね。

Q2 当時の印象は？

日本列島あちこち行きましたが、ここはほかとは違うと思ひました。一つ目は、夜空の星が近い。二つ目は、能登の人たちは、人情深く素朴な人たちが多い。こんな素晴らしいところがあつたんだと本当に思ひました。無名塾は東京に稽古場がありますが、昔は倉庫みたいな小さな所で稽古をしていたんです。大きなステージで稽古をしたいと思つたら、転々と会場を求めて歩き回らんです。

そして、能登半島を旅行した時「空気がきれいだし、そこに住む人もいい。食べ物もおいしいし、こんなところで稽古ができれば最高だね」とつぶやいたんです。そしたら、旧中島町

## そのとき 能登の風土が 私と共鳴したんです。



の方から「中島町と無名塾の若者を交流させて、合宿をしたらどうですか」と言われたんです。その言葉がきっかけで1週間、合宿をしたんですよ。当時は、各家庭に泊めてもらったんですよ。稽古場所は、武道館や体育館などを借り、稽古をしました。そんな合宿がずっと続きましたね。

この30年、私と無名塾、旧中島町は、相も変わらずこんな関係を続けているんです。

Q3 合宿や演劇公演をこの七尾市で続けることができるのはなぜですか？

それは人と人との出会いです。初めは、どうして、無名塾を合宿させたり、お世話したりしないとダメなんだという話がありましたね。しかし、毎年合宿を続けると、地域の皆さんと打ち解け合うことができましたし、中島商店街を歩くと、皆さんが団員の名前など

を覚えてくれて、話かけてくれたんです。その時、町民になったような感じがしましたね。このような劇団と地域の人たちとの交流が、30年間も続けられていることは珍しいんです。これは、地域の皆さんの懐の深さがあるからこそですよ。

私たちも地域の皆さんのご期待に応えるべく、年に一度、無名塾の芝居を作り全国公演するんですけど、そのスタートは能登演劇堂からと決めています。

Q4 能登演劇堂の魅力や評価は？

先に結論から言いますと「日本一の劇場」ですね。能登演劇堂は全国でも少ない演劇専門ホールです。東京の有名な劇団でも、能登演劇堂を訪れると、素晴らしいと拍手をするんですよ。

また、舞台の後ろは観音開き

となつていますので、屋外までも舞台となる劇場は世界でも珍しいですね。こんな素晴らしい劇場を旧中島町で作つていただき、今も七尾市として運用してくださっているということに、本当に感謝しています。私がこの世から去つたとしても能登演劇堂は残っています。これは、「日本の演劇界の宝」ですよ。今後も、みんなで大事に劇文化として位置づけさせていただくとうれしいですね。

Q5 市民へメッセージをお願いします。

地方にこんな劇場があることは、日本では本当に珍しいことですよ。素晴らしいことです。そして、能登半島七尾市、能登演劇堂を中心と考え、全国からたくさんのお客さんに来てもらえるような芝居を作ります。ぜひ、七尾市の皆さんにもいろいろな面でご協力いただきたいと思ひますし、いっしょに創り上げていきたいと思ひます。

七尾市民の皆さん、これからもよろしくお願いします。

